

申込内容

■事業の概要

～世界をつなごう～をテーマに、豊中在住他の外国ミュージシャンによる「とよなか国際音楽祭」で珍しい楽器や聞いたことのない音色など生の音楽に触れ一緒に楽しみませんか？あなたも参加できるイベントです。

■目的

ペルーインカ帝国の母国語（ケチュア語）でアマウタは、「教え伝える人」という意味を持ち、多くの人々にペルーの文化や音楽を知ってもらい、又活動に参加して頂いて、国際交流の場を作っていきたいという趣旨で設立致しました。

■交付決定額 500,000 円
（事業予算 1,245,000 円）



◎活動の様子

平成25年2月10日(日)、アクア文化ホール(曾根東町)で、第2回とよなか国際音楽祭が開催されました。「とよなか国際音楽祭」の名にふさわしく、今回は、ケニア、中国の新疆(しんきょう)ウイグル自治区、モンゴル、ペルーなど、アマウタぶんか倶楽部のネットワークを活かし様々な国のミュージシャンが集まりました。大阪音楽大学の卒業生で構成されたクラリネットのグループも出演していました。

様々な国の民芸品なども売られ、子ども連れのお客さんを始め、300人以上の方が集まった会場は、開演前から盛り上がりを見せていました。開演は、出演者全員による演奏で始まりました。様々な国の、様々な楽器が、同じメロディを奏で、一つの音楽となり、観客を包み込みます。続けて、新疆ウイグル自治区の音楽と舞踏が始まりました。あまり聞き慣れないようでいて、どこか懐かしい感じもする音楽と舞踏に観客は息を飲んでいました。次は、ケニアの歌とダンス。力強く歯切れの良いリズムに自然と身体が動き出します。途中で、お客さんをステージに招いてダンスを一緒にしたときは、出演者と観客の垣根が無くなりました。その次はモンゴルの音楽です。「馬頭琴(ばとうきん)」という民族楽器から奏でられる澄んだ音色は、モンゴルの大草原の情景が浮かんでくるようで、みなさん聞き入っていました。そして、次はこの音楽祭の主催者でもあるフローレスデュオによるペルーの音楽。足踏みや手拍子

などで、一気に観客を巻き込み会場を盛り上げます。最後は、もう一度出演者全員が集まり、日本の童謡「ふるさと」を演奏されていました。

「とよなか国際音楽祭」は、よく知られている音楽と、普段はあまり触れる機会の少ない国々の音楽や踊りとが合わさる楽しさがありました。音楽を共通言語として、豊中市民に多様な文化に触れてもらいたいという代表のフローレス・フレディさんの思いが感じられました。



◎リンク

[アマウタぶんか倶楽部ホームページ](#)

活動紹介へ

もどる